

講演 「自然体験活動の安全管理」  
大阪国際大学 人間科学部 教授  
公益社団法人日本キャンプ協会 理事  
高見 彰 氏

今日お話ししたいこと  
I. 体験活動がもたらす効果とは  
II. いいキャンプとは？  
III. 活動における危険の種類  
IV. 見えるものから、見えないものを重視  
V. 安全意識は日常の心配り、気配りから  
特に訴えたい実務の安全管理とは  
↓  
今日から自分自身の安全管理を始めよう

# 市の安全管理体制の充実を図り 安心・安全の輪をまち全体へ

「甲賀市青少年活動安全誓いの日」の7月31日、甲賀市青少年活動安全誓いのつどいをあひつつか市民ホールで開催し、市民の皆さんをはじめ、市職員、教育関係者など725名の参加がありました。  
つどいでは、初めに6年前に市が起こした四万十川水難事故でお亡くなりになられたお二人への黙祷をささげ、青少年の野外活動をはじめとする市の全ての事業の安心・安全の確保に全力を挙げて取り組むことをお誓いしました。  
また、これに続いて、市の安全管理の取り組み報告と青少年活動の安全についての講演会を行いました。

## 甲賀市の安全管理の 取り組み報告

### 1 事故の原因と背景を 踏まえた改善

四万十川水難事故の背景には、市における「安全管理体制の不備」「責任意識と安全意識の欠落」「安全管理能力と指導力不足」「目的・目標達成のための役割分担の不備」等の問題がありました。  
こうした事故原因を解消するため次の改善策を進めています。

### 2 甲賀市事業執行安全 管理体制審査委員会 によるチェック

市の事業のうち特に危険要因を多く含む事業については実施前に審査委員会を開催し、安全管理体制をチェックしています。  
審査委員会では、事業に伴う危険要因を検討し、安全面で不備があるものについては改善指導を行っています。昨年度

### 3 「安全管理マニュアル」の 整備と見直し

市の各職場において、今まで培ってきた安全管理体制が引き継がれるよう、現在70のマニュアルを整備しています。  
今後は、更に活用しやすいように見直しを行うと共に、新たに必要となる事業においては追加作成していきます。

### 4 「職場安全管理推進 リーダー研修」等の 持続的実施

安全管理に対する責任能力をより強化するため、各部局長を総括責任者として121の職場ごとに安全管理推進リーダーを設置し、毎年リーダー研修を実施しています。今年7月2日に開催した研修では、身近な取り組み事例に基づき、安全管理意

識の共有・向上を図りました。

### 5 各職場で安全管理 推進運動を実施

7月を各職場の「安全管理推進運動強調月間」と定め、この期間に各職場では、安全管理推進リーダーが中心となって、研修や安全管理推進運動を実施しました。

## 今後の取り組み

① 職場の安全管理の基礎知識の向上と職務上の安全管理体制の強化  
② 職場の現状に合った安全管理マニュアルの見直しと見直し作業を通じた職員全体のマニュアル理解の徹底  
③ 職場内における世代間コミュニケーションとチームマネジメントによる組織の危機対応能力の強化  
④ 職場におけるヒヤリハット事例の情報共有と問題・原因の整理、有効な改善策の構築  
⑤ 安心安全な地域社会を目指すセーフコミュニティの取り組み

毎年この体制整備と安全運動の取り組みは定着してきていますが、さらなる強化が必要です。今後の安全管理の取り組みとして次の5項目を進めていきます。  
このように甲賀市の安全管理をどのように実を積み上げ向上させていきます。

さらには今後は、市の事業を安全に行うだけではなく、まち全体へと安心安全の輪を広げていきます。  
セーフコミュニティは、事故やけがを効果的に予防し、安全な地域社会を目指す世界基準の取り組みです。このしくみを取り入れることで、市民・関係団体・行政が分野の垣根を越えて連携し、全ての人が安心して安全に暮らすことができるまちづくりを推進していきます。

### ○ 自然体験活動事業を実施し 青少年活動の安心・安全を確保

市教育委員会では、野外活動をはじめとする青少年活動の安心・安全の確保に取り組んでいくために、主に以下の自然体験活動事業を実施しています。

### ■ 青少年自然体験活動指導者等研修

青少年の自然体験活動にかかわる市内の各種団体等の指導者を対象に、毎年度2回開催しています。

参加者は、同活動の意義と企画・実施における安全対策の重要性を認識していく中で、安全かつ効果的に事業が推進するための手法を学んでいます。

今年度は第1回目を6月13日に「野外活動時の安全管理」をテーマに開催しました。



▲ロープワークを学ぶ

### ■ ニンニン忍者キャンプ

市内の青少年に親元と日常生活から離れ、技術や知識の習得と仲間との関係づくりを学ぶ場を提供するため、4泊5日のキャンプを希望が丘文化公園で開催しています。参加対象は小学4年生から中学3年生までの男女50人の子どもたちです。

また、指導する青年リーダーには、子どもたちのかかわりの中から、これまでの研修や体験を再確認し、指導者としての基礎を学ぶ機会としています。



▲事前研修会で危険予知トレーニング

### ～つどい「講演会」から～ 「自然体験活動の安全管理」

大阪国際大学人間科学部教授  
公益社団法人日本キャンプ協会理事  
高見 彰 氏



講演される高見彰氏

子どもたちにとって、キャンプなどの自然体験活動を経験することは、豊かな人生の基盤となります。ところが、活動を行う上では多くの危険が潜んでいます。そのため、主催者は安全に配慮し、危険予知や危険回避に努めなければなりません。

安全意識は日常の心配りや気配りから身につくものです。特に主催者や指導者は、安全管理の知識や技術を習得するための研修を繰り返し受けることが大切です。

### ■ 自然体験活動担当職員研修

市の事業で自然体験活動を実施する担当者を対象に、必要な知識や技能、心構えを習得するために開催しています。

今年度も5回の開催の中で、緊急時に対処するための心肺蘇生法や水上安全のための着衣泳法等を学びました。



▲心肺蘇生法を学ぶ